

## 「気象予報士試験」合格体験記 2

E.I (県外放送局勤務)

2011年10月7日(金)、今回もダメか・・・いや、今回こそは・・・でもなあ・・・。

と、毎度ながらの複雑な思いで気象業務支援センターのホームページにアクセス。

受験をした北海道の合格者番号を見ると・・・

「3人しか合格していない・・・やっぱりだめか・・・おっ！！待てよ。

この番号は、もしや・・・もしやあ～～！！」

と心の中で叫び、自分の受験票と照らし合わせ、思わず

「局長～～～～！！！！」と心の中ではなく、大声で叫びました。

(どのような環境だったかといいますと・・・そこは、社内。

フロアには私、上司の局長、あと2～3人のスタッフしかおらず、

シ～～ンとしていて、私は仕事をしているフリをして、ホームページを確認)

「落ちたか～～～！？受かったか～～～！？落ちたか～～～！？」と、局長。

(「落ちたか～～～！？」の方が多かった・・・)

「いや、合格しました～～～！！！！」と、私。

「やっとな～～～！！！！」と、局長。

(「やっとな～～～！！」じゃなくて、「やった～～～！！」にしていただきたかったのですが・・・)

ですが、「やっとな」の思いで合格できたので、その喜びは格別でした。

その夜、仕事を終えて帰宅すると、「気象予報士合格証明書」のはがきが届いており、合格の実感が湧いてきました。

そして今、念願の「気象予報士」として、日々天気に関わる仕事をしています。

### \*受験の動機\*

受験の動機は2つあります。

① 私は身長173cmほど。(一応女性です) 学生の頃、バスケット部に所属しており、コーチの言うがまま「身長伸びる体操」をしたら、本当に伸びました。いや、伸びすぎました・・・。

背が高い事をコンプレックスに思っていた私は、ある日祖父に言われました。

「おまえは他の人より空に近くていいねえ」と。

そんな祖父は188cm。戦争でアメリカ兵に間違われ、危険な目にあった、と言っています。

その頃からよく「空」を見上げるようになりました。

② 3年ほど前、私は大切な仲間を気象による事故で亡くしました。

同じ目標を持った仲間を失い、自分だけが生きている事に罪悪感さえ覚え、眠れない日々が続きました。自分を苦しめてしまいたいと思いました。

でも、こんな思いをしていても何の供養にもならない、誰の役にもたたないと感じ、

その仲間に、気象予報士になることを誓いました。

天気は人の手で変える事はできないけれど、気象災害は人の手で無くす事ができるのではないかと、思

ったからです。

\*合格までの道のり\*

受験 1 回目・・・全科目 × (勉強を始めて間もなくだったので、ほとんど旅行気分で  
受けました。鉛筆ころがしで、一般が 6 問正解しました！  
鉛筆ころがして、結構すごい・・・と思いました)

受験 2 回目・・・一般合格

受験 3 回目・・・専門合格

受験 4 回目・・・不合格

受験 5 回目・・・一般受け直して 再び合格

受験 6 回目・・・☆合格☆

なかなか実技が合格できませんでしたが、一番難しいと感じたのは「一般科目」です。  
でも、2 回、合格できました！ (できれば 1 回にしたかったのですが・・・)

\*講習を受けてみて\*

難関の国家試験と言われている気象予報士試験。

何の知識もなく、残業残業休みなしで働いていて勉強時間に限りがある私が

講習を受けようと思ったのは、独学より何キロも、いや、何百キロも、、いや、何万光年も！！

(ちょっと行きすぎましたが・・・) 近道だと感じたからです。

通信教育のパンフレットなども見てみましたが、やはり、「先生」の言葉を「耳」で聞き、

「先生」の表情を「頭」で感じとり、「先生」の書いた文字を「目」で見て、

その思いを「心」で感じることに、勝るものはありません。

勉強は、五感を十分使わなければならないと、よく高校の先生に言われました。

(ちなみにその先生のあだ名は、アンパンマン・・・。そんなあだ名をつけてしまったのに、アンパンマン先生の言葉は今でもしっかり胸に焼き付いています)

住んでいる青森からは電車+バスで約 3 時間ほど。

通えるか不安もありましたが、往復 6 時間かけて受ける講習は、

それ以上の価値がありました。

短時間の勉強で、なんとか合格したいという私の願いにぴったりな、

「ここが出るぞ！」的な、ポイントを学べました。

また、講習が一通り終了してからも、メールや F A X などで質問を受け付けていただきました。問題集でわからない所を丁寧に教えてくださり、先生のもとでなかったら、私はまだまだ合格にたどりついていなかったと思います。

往復 6 時間の距離は、合格への近道でした。

また、先生に出会えた事で、途中で投げ出す事なく勉強が続けられたと思います。

とても感謝しています！

これからも、今まで学んだ知識以上に学ぶ事がたくさんあると思いますが、

青森から秋田まで通った日々を思い出しながら、

頑張っていこうと思います！

✍

## 「気象予報士試験」合格体験記

佐藤麻知子

中学生ぐらいのとき、気象予報士という資格があることを知りました。なんとなく「カッコイイ」というイメージを持ち、いつかは資格を取りたいと漠然と思っていました。高校の時もその思いはありましたが、特に何も行動は起こりませんでした。大学受験が終わった頃に、「大学の4年間で資格を取ろう」と決意し、この頃には仲の良い友人や家族に、私の気象に対する思いを伝えることもありました。ただ、私には理科が苦手という問題がありました。気象予報士はカッコイイけど、理科に含まれる気象というものに抵抗を持つという矛盾を抱えており、なかなか行動に移すことができなかったのです。

大学に入って時間に余裕が出てきた頃、やっと行動を開始しました。気象予報士になるためにはどうしたらよいか、本屋へ行って関係する本を探し、読みあさりしました。その結果、「気象の大百科」を手に入れることにし、書店で取り寄せました。手元に届いて中を見た途端、一気にやる気が失せてしまいました。聞いたこともない言葉、わけのわからない計算式、膨大なページ数。私には無理だと思ったのです。しかし、大学3年になると、卒業に必要な単位もほぼ取り終えて時間にゆとりができ、簡単なことから取り組むことにし、ゆっくりと勉強を進めていきました。「予報業務に関する専門知識」の科目に合格すると、気象予報士に対する気持ちはいっそう強まりました。4年になり、就職活動をしていても、せっかく合格した科目の有効期限が気になりました。「私のやりたいことは気象に関することだ」と気がつき、ついには就職活動を打ち切りました。当時住んでいたところの近くの気象会社に連絡し、勉強を教えて欲しいと伝えたところ、ちょうど人が足りないということで、アルバイトをしながら勉強することになりました。でも、なかなか勉強は進みません。それは、ただひたすら“なぜそういう考え方をするのか”という大切なところを無視して、ただ暗記しようとしていたからです。ただ時間ばかりがかかり、試験日が近づいてくるにつれて焦りの気持ちがでてきました。「予報業務に関する一般知識」の科目の結果は、合格には程遠いものでした。そんなとき、ウェザープランニングが「気象予報士試験受験対策講習会」を開講することを新聞で知り、受講することにしたのです。

アルバイトだったので、比較的時間があがり、改めて基礎からやりなおしました。すると、今まで一人で勉強していてふに落ちなかったこと、間違っていて覚えていたこと、大切なポイントが抜け落ちていたことなどが分かってきました。これでは合格できるわけがなかったのです。講習では、しつこいぐらい同じことを何度も質問したのですが、分かるまで丁寧

に教えてくださいました。私が勉強の仕方がわからないことを伝えると、合格までの道筋を作ってください、その上に乗ってひたすら勉強するのみでした。勉強を進めていくうちに少しずつ理解が深まっていくことが自分でもわかりました。「予報業務に関する一般知識」には多くの内容がありますが、試験の1か月前には、各項目別に覚えていたことがつなまって、「納得!!」という感じになりました。こうして試験は学科の2科目に合格。この時点の目標はクリアしました。

次は実技試験に向けての勉強です。学科はマークシートですが、実技は文章で答えなければなりません。文章力のない私は苦勞するだろうと思ったのですが、答え方、書き方のポイントがあることを教えてもらい、それを覚えることに専念しました。過去問を4~5回解いて頭に叩き込みました。学科の勉強でしっかりと基礎を固めていたので、実技の勉強をしていて分からないところを、ノートを見て思い出すぐらいで済みました。ただ、勉強していて学科の時ほど力がついている実感はありませんでした。

試験を受けた日は、手応えがなく、絶対に合格できないとがっかりして仙台から帰ってきました。気象予報士にはなれないのだろうかと思ち込みました。合格発表の日、私は出かけていて、アルバイト先の先輩から合格者の受験番号がメールで送られてきました。これは私の番号?、と確信が持てなかったものの、出かける前に確認した番号がありました。自分の目で確認しなくては、と、帰る予定を早め、2時間ほど車を運転して帰ってきました。車中で涙が出てきたのですが、まだ合格したかどうかわからない、と、自分に言い聞かせました。家に着くと結果通知の葉書が届いていました。開いてみると「合格」。あまりの嬉しさにまた涙。言葉も出ず、ジーっと合格という文字を見つめていました。このために今まで頑張ってきたんだなあと、これまでの予報士への道を振り返り、よく頑張ったと自分自身にやっと良い言葉をかけられました。

ここまで来ることが出来たのは、ウェザープランニングの石塚さんのおかげです。試験直前になって質問の嵐をメールで送っても、すぐに丁寧な答えが返ってきました。きっと忙しい仕事の合間や、昼ご飯の時間を割いてくださったのだと思います。本当にありがとうございました。講座に通うのは遠くて大変でしたが、苦に思ったことはありませんでした。楽しみでした。分からないことが分かったり、発見がたくさんあって、気象の楽しさがどんどん膨らみました。これからも気象と関わって一生の好きなものとして私の中にあると思います。何度もいいますが、本当にありがとうございました。